

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2007年 6月

平成 18 年度電気材料安全・規格委員会報告

電気製品の安全性確保に果たすプラスチックの役割の重要性を認識し、関係団体と協力して電気製品の安全規格やそれに使用されるプラスチック関連試験規格の国際統合化の動きに対し、業界の意向反映に努めた。

1. (社)電子情報技術産業協会(JEITA)との連携

電気材料安全連絡会を4回開催するとともに、JEITAのAV機器安全技術専門委員会及び国際制度専門委員会の各総会にも特別参加し、電気製品の安全や電気材料に関する規格等の案件を幅広く取り上げて情報交換を行った。

2. 電気製品に使用される電気用品部品・材料認証協議会(CMJ)の登録制度への対応

①CMJ材料部会：「0.1mmビカット軟化温度及びグローワイヤ試験の登録化」に関し、材料登録制度説明会を開催し2007年1月から正式登録をスタートさせた。従来のボールプレッシャー温度との相関から暫定登録ができる樹脂については同年1～3月に暫定登録が受け付けられる。

②特別WG：電気製品及びそれに組み込む部品・材料の国際化に伴う登録制度の今後の対応について、材料、部品、製品、認証機関からなる特別WGを設置して制度の見直し及び構築を行うべく検討が行われた。「国際認証制度への参画」、「技術体制の整備」などの具体的な作業が今後の年間活動項目に組み込まれ実施されることになる。

3. 電気安全に係る規格関連

①IEC/TC89(耐火性試験) / (財)日本電子部品信頼性センター(RCJ)

レイキャビック(5月・アイスランド)及びストックホルム(10月・スウェーデン)の各国際会議に委員を派遣し、関連規格の見直し、統廃合の審議に参画した。

JIS原案作成委員会では1件JIS原案を作成した。

②IEC/TC108(オーディオ・ビデオ、情報機器、通信技術分野における電子機器の安全性) / (社)ビジネス機械・情報システム産業協会

■HBSDT分科会：TC108の安全性規格を5つの細分に分けて開発中である。現在CD2(委員会原案)の投票中。プラ工連代表は火災安全と化学物質安全を担当しており、2007年秋にCDV化が予定されている。

■WG10分科会(環境関連規格検討のためのWG)：

TC111に先行する環境関連規格IEC 62075(IT/AV機器の環境配慮設計)が、CDV投票段階に進んでいる。

③IEC/TC112(電気絶縁材料及びシステムの評価と認定) / 電気学会

国内委員会が3回開催され、国際会議は2006年9月にベルリンで開催された。プラスチックに関係がある規格が2件審議中。

プラ工連から制定提案していたIEC 60093:1980(固体絶縁材料の体積抵抗率及び表面抵抗率の試験方法)のJIS化は、今年度のアイテムとして作業が行われている。

④IEC/TC111(電気・電子機器、システムの環境規格) / JEITA

WG1(含有化学物質開示手順)では、WD(作業原案)をまとめる段階にあり、開示すべきレベルの基準作りが進められているが、難行している。

WG2(環境配慮設計)では、IEC 62430(環境配慮設計規格)のCDV原案を作成中。TC108のCDV 62075と調整しながらの作業となっている。

WG3(RoHS規制含有化学物質試験方法)では、CDVに進んだIEC 62321(規制物質の測定法)が、臭素系難燃剤と六価クロムの分析精度が悪いという理由で、否決された。5月に再度、CDV.2を廻すことになった。

新たに、化学物質管理に関するガイダンス等を扱うWGが発足する予定。

⑤UL関係

■ULの安全規格(UL94, 746A, 796F)の改訂状況を報告した。

■UL94 5V 燃焼試験方法対応

2005年夏に顕在化した、UL94 5V 試験方法の問題について、昨年度に引続き当委員会が窓口と

なり UL との交渉を行い、当委員会からの要求を満たす結果となった。

4. その他

「非接触火炎源による熱流着火特性の求め方」
を主題に勉強会を開催した。

以上

電気材料安全・規格委員会
委員長 金子 昌弘
(日本エイアンドエル株式会社)